



# 共同通信



2008年12月日 148(358号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

## To tell the story 48 『私の幼稚園時代』

毎年1月におこなわれる園児のお父さんのための新年会をご存じでしょうか。確か4年ほど前から行われていて、私は毎回参加しています。

日頃交流のないお父さん方といういろいろな会話で盛り上がるのですが、そのときに園長先生や順子先生を交えて話に出てくるのが共同幼稚園の昔話です。

私は1971年(昭和46年)3月に共同幼稚園を卒園したOBなのです。一度、順子先生のお便りの中で、新年会の時に新集会室の中にあった旧園舎の航空写真のパネルを懐かしい目線を送っていた私の話が登場しています。当然、お世話になった当時の先生方はおられる訳もなく、今の

園舎・園庭にも当時の面影は全く無くなっています。

旧園舎は一部2階の木造。当時は1学年2クラスの2年保育でしたので教室は4つ。今の正門の少し南(おそらく今のGOLD横のマンション入り口あたり)にアーチのついた今のような正門があり正門を挟んで両側に教室がありました。特に印象にのこっているのは舞台付きの天井が高い大きな教室が1つあった事です。この教室は年長の「すみれ組」が使っていたのですが、私はこの大きな教室に憧れていました。私が年長になって、すみれ組と決まった時「やったあ！」と密かに喜んだのを覚えています。

夏のお泊まり保育は今もあります  
が、当時は幼稚園での一泊保育で  
した。お風呂の代わりに大きなビニ  
ールプールで水浴び、夜は園庭でキ  
ャンプファイヤー。大きなすみれ組  
の部屋での就寝でしたが、寝言や時  
折先生が見回りされる足音などでな  
かなか寝られなかった様に思います。

2階は園児の教室として使ってい  
なかつたので、2階には上がらない  
ようにと言われていた気がしていま  
す。2階では降園後、子供対象のオル  
ガン教室や絵の教室が開かれていま  
した。教室に通っていた私は、時間  
があれば2階から園庭や周りの景色  
を眺めていたものです。

今のマンションもなく、園庭が南  
側の道路まであり遊具がいろいろあ  
りました。遊んでいたら道路からよ  
くその様子が見えていた様で、顔見  
知りのどこかの店のおじさんに声  
をかけられたこともありました。

また今のアートガレーヂあたりに  
大きな桜がありました。毎年、春にな  
るときれいな花を咲かせていたこと  
を覚えています。卒園後、数年たち老  
朽がすすみ、今の園舎への立て替え  
となり、「時々あの桜を切ったのはだ  
れだ、と責められる事がある」と園  
長先生は新年会で苦笑いされていま  
した。

どう考えても当時の木造園舎が存  
在し続けることは現実的ではありま  
せん。が、私にすれば思い出のしみこ

んだ木造園舎だったと思っています。

そんな思い出いっぱい  
の共同幼稚園にまた我が子もお世話  
になり、大変うれしく思っています。  
また共同幼稚園の子供すべてが  
かわいい後輩たちです。限りなく  
思い出はよみがえってきます。以  
前共同まつり前のある日曜日、お  
迎えのために園庭で待っていた時  
の事です。園長先生が教会学校の  
子供たちと一緒にオリーブの実を  
摘んでおられました。それを見て  
いたら、園長先生に「先輩！オリ  
ーブ摘み手伝ってください。」と  
私の方を見て声をかけてください  
ました。突然「先輩」と呼ばれ戸  
惑いしましたが、「先輩」という響  
きはいいものです。子供たちは「  
このおじさんが先輩？」と思っ  
たことでしょう。

今回、共同通信への投稿依頼を受  
け、何かいいネタを探すために私  
と同じく共同卒園児で嫁いでいる  
妹二人にも思い出を聞いてみまし  
た。私たち兄妹3人とも木造園舎  
時代の卒園です。

今とは違いはありますがいろんな  
行事やその行事での料理、先生  
の事など、どんどんわき出る思  
い出は尽きません。ただ、妹たち  
とそれぞれ思い出を話していた中  
で最後に出た事は、二人とも今  
は無き「木造園舎」が懐かしい  
という事でした。妹たちとなか  
なか幼稚園時代の事を会話する  
事なんてなかったのでいい機会  
ができました。

我が子を見ていて、遊びや行事を通じて私の在園時以上に五感にいろいろ刺激をあたえくださっている事に大変感謝しています。

当時は共同幼稚園の「どろんこと太陽」と言った歌（園歌？）もなく、登山や電車も使うお出かけ散歩もなく、大きな畑での収穫もなく、今の子供たちがうらやましく思います。その子供たちが大人になり、幼稚園時代を振り返ったとき五感から入った多くの体験が今の自分のどこかに生きている、と感じて欲しいと思います。

私の卒園時の形としての面影がない現在の共同幼稚園。私が今の年齢になっても多くの思い出を覚えている様に子供たちが卒園しても体験した事を覚えている事でしょう。

（壺見 安男）

わかジャパン用水路ではこのところ滞農する日農民が増え緑が勢よく広がっています。

作業現場では毎日、五〇〇名を超える農民たちが必死で働いています。

最終目標地点である、ガンベリー砂漠の横断測量を完了しルートが決まりました。その幅約三キロメートル熱少が煽られ、容赦なく照りつける陽光限りなく広がる砂漠茶褐色の山肌と紺碧の空、その彼方に屋気楼のように緑の楽園を想像するのも嬉しいことです。日本人ワーカーが全て去り、多少寂しいですが「少なくともここには希望がある」といふ確信いや確信といふよりは喜びが小生の役得であります。

皆が去った分だけ甘くなったもののオンボロ重機の唸りシャベルをふるって干を流す人々の気自威勢の喧嘩まで何やら頼もしさを覚えるこの頃であります。

(ペシャワール会・中村哲)

人が、あることを口にしたり書き残したりするのは、どうであれそのことに関心があったからです。新約聖書、中でもマタイ、マルコ、ルカなどの福音書で繰り返し言及される“神の国”も、新約聖書の時代の人たちがその事に関心があったからであるのは同様です。しかし、神の国の定義や理解ということになると、すっきり“これ！”というようにはならないようです。相手が“神の国”ですから、人の定義や理解にすんなりはまらなかった、ということなのかも知れません。

マルコによる福音書は、最初のイエスの言葉が「ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。『時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ』」だったと伝えていきます(1章14節、15節)。しかし“近づいた”とされる“神の国”の

定義や理解が具体的に示されるということはありません。明確なのは、それは“壁”によって示されたということです。「神の国は、ある人が地に種をまくようなものである・・・」(マルコによる福音書4章26節)、「神の国を何に比べようか。また、どんな壁で言いあらわそうか。それは、一粒のからし種のようなものである」(同30、31節)。これらのことから判断できるのは、いずれにしても神の国は直接に指し示し得るものなんかではなく、けれど“壁”だったら積極的に理解し得る相手であるらしいことです。

ルカによる福音書のイエスは「わたしは、ほかの町々に、神の国の福音を宣べ伝えねばならない。自分はそのためにつかわされたのである」と、神の国のことを言及しています。こうして“神の国の福音”のことを、イザヤ書を“引用”しながら「・・・

囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ」「この聖句は、あなたがたの耳にしたこの日に成就した」と、イエス自身の“神の国”の理解や定義をより具体的に言及しているように読めます。

マタイによる福音書のイエスは、「礼拝堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中にあるあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった」人として描かれます。この場合の“御国”や、別にマタイ福音書で使われている“天国”と、“神の国”はほぼ同義であると考えられます。そして“宣べ伝える”は、イエスが多くの場合していたとされる“教え”と、その内容においてほぼ同義です。そうして教えていた“御国の福音”が、たとえばマタイ福音書の5章3～10節で具体的に示されます。「こころの貧しい人たちは、さいわいである。天国は彼らのものである。悲しんでいる人たちは、さいわいである。天国は彼らのものである。彼らは慰められるであろう・・・義のために迫害されている人たちは、さいわいである。天国は彼らのものである。」少なからず、注意を要するのは、“天国は彼らのものである”と言われている人の状況は、確かに事実として示されますが、その結果についてはほぼ無関心で、そうして生きる、その人の現実がそのまま天国・神の国であ

ると言っているように聞こえます。同じことは、先に示したマルコによる福音書1章14、15節の場合にも言えます。理想の天国・神の国の実現ではなく、そこにある現実を引き受けて生きる、その人の現在が、そのまま神の国だと言っているに等しいのです。

ということで、“神の国”は、あれこれ、いろいろ言及されるのですが、その具体的な姿は一向に示される様子はありません。相手が“神の”国なのですから、そうなって当然だと言ってしまおうとすれば、それはそれで身も蓋もなくなってしまいます。

マルコによる福音書には、別に「幼な子らを、わたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である」と書かれています(10章14節)。この場合も、神の国が具体的な姿として示されるわけではありませんが、別の示唆がここにはあります。

(菅澤 邦明)

## 幼稚園に冬がきました！

風が冷たくて息が白くても半そでにビーチサンダルで幼稚園にやってくる子どもがいます。勢い良く門を駆け抜けて園舎に行く姿を見ると、「負けてたまるか」と密かに燃えている自分がいます。ですので、ビーチサンダルはダメでも半そででなるべく過ごそうと心に決めています。寒かったら縄跳びや次に紹介する“アレ”で体を動かし寒さを吹き飛ばしています！

今幼稚園で流行っている“あそび”があります。先日、園舎の2階で集まりがあり例年より少し早く登場しました。ただ単に登場するのではなく、みんなと楽しんでからの登場です。順子先生のクイズ形式でヒントが出されていくのですがこれがなかなか難しいのです。ヒント 4文字。食べるものではありません。いよいよこの季節です。これだけでは頭がカチンコチンな僕はクリスマスのことしか出てこなかったです。全く分からないまま次のヒントが出されました。ヒント 丸いです。いよいよこの季節で4文字で丸い？まだまだひらめきません……。考え込んでいると年長の子どもが数人、勢い良く手を挙げています！「おいおい、まさか分かったのかい？本当に??」と思っていると順子先生の耳元で答えを言っています。そして順子先生と抱

き合っています。てことは大正解！な訳です。目が点になって驚かせられました。これだけのヒントで分かるなんてスゴイ！の一言です。みなさんはこれだけのヒントで分かりますか？丸くて今の季節のあそびと言えばそうです。“けん玉”です。いよいよけん玉が登場し、毎日“もしかめ”の練習をしています。特大サイズのけん玉も登場して、いつも以上に子どもも大人も楽しんでいきます。

いよいよクリスマスを迎えます。11月30日(日)から待降節(アドベント)に入り、リースに口ウソクが一つ灯りました(毎週日曜日に口ウソクに灯す本数を増やしていき4本全て灯ればクリスマスです)。子どもたちにはアドベントを楽しんでもらうために手作りのアドベントカレンダーが渡されました。おうちで家族の人と楽しむ時間のきっかけになればいいですね。子どもたちが大好きなクリスマスソングを毎日歌い、園庭で遊んでいる時や外に出掛ける時に口ずさみ、とても気分のいい時間を子どもたちと過ごしています。そんな時間を当たり前のように過ごしていますが、一日一日を大切に、変化のある楽しい時間を創り出すことができるように取り組んでいきたいと思っています。

(馬場田 悠作)

# 沖縄かむじゃたん便り

(2 - 001・旧アコークロー通信)

えー、しばらく休載しました。申し訳ありません。

沖縄に来て10年が過ぎ、なんやかやあって社会福祉の仕事を7月末で辞め、8月から新しい事務所を南風原町に借りて「沖縄かむじゃたん相談室」を開き各種相談やキリスト教の集会や沖縄ガイドなどを生業(なりわい)とします。食えるかどうかはわかりませんが、当分、沖縄にいます。

で、「かむじゃたん」なのですが、これは関西の韓国料理を出すところならあるかもしれません。「かむじゃ」はじゃがいものことです。じゃがいもや野菜、肉が入った少々辛めのなべ料理が「かむじゃたん」です。

私の、年来のテーマは「沖縄戦と朝鮮人」です。沖縄戦のガイドでも「1万人とも2万人ともいわれる朝鮮人が軍夫やいわゆる慰安婦として沖縄に存在した」などというのですが、少しでも実像に迫りたいという思いがあります。沖縄では「在日社会」が十分形成されていないことや戦後史研究が後回しにされたり、自分たちの生活や子供の教育で精一杯で、「沖縄戦と朝鮮人」という課題はあまり解明されていないのです。沖縄戦時、その朝鮮人たちがイモを

盗って食べたと何人かが日本兵によって処刑されたという証言があります。そんなこんなの意味を込めて「沖縄かむじゃたん」という名前にしたのです。この通信の名前もついでに改めました。どうかご了承ください。

「相談」は、なんでも相談なのですが、医療行為や法律業務はできませんが、行政相談や医者や弁護士ではない「牧師」としてさまざまな相談にのり、必要があれば関係機関につなぐものです。

またこのところ積極的にはやっていなかった「沖縄戦跡ガイド」も復活します。顔の見える範囲でのガイドはやってきましたが、中高生の、例えばどこかの壕だけのガイドは少々サボっていました。けれども、この時代にそういう役割も必要だろうと思っているのです。ちかごろやりだしているものでは、「沖縄文化案内」です。沖縄の生活と文化を垣間見て沖縄理解を深めてもらうツアーです。

沖縄は、これまでもお伝えしてきましたが、確かに何をやるにしても沖縄戦と米軍基地はついてまわってきます。しかし、毎日こぶしを振り上げて「闘う」だけではなく、長い歴史 = 生活と文化のなかで存在して 7

いるのです。春から秋にかけて沖縄は各地で集落単位の行事があります。素朴な祭りや壮大な風物は沖縄理解に必要な事柄ですが、この構造が重要なのは、実は沖縄でもあまり理解されていないのです。そんなガイドも近頃やっているのです。これを書いているのは9月の最終日曜日です。この日、那覇では「孔子祭」があります。沖縄は、長く中国の冊封（さっぽう）を受け、中国からの渡来の末裔を名乗る人も少なくありません。孔子廟での行事を見るのは初めてです。このあたりも韓国と沖縄が似ているところでもあるのです。次回はこのレポートです。ともあれ、沖縄のさまざまな出来事や事象を発信したいと思います。

この事務所を維持するために、そして自らの生活を維持するのにどれほどの費用がかかるかわかりません。社会福祉施設の会計はいささかわかるものの、自分の会計はさっぱりです。そこでみなさんのカンパもお願いするかもしれません。ご理解いただければ幸いです。

（沖縄・後藤 聡）

## すずや便り

先日、昭和記念公園に行ってきました。イチヨウ並木がとてもきれいで左右から光が差し込み、下の落ち葉じゅうたんがその光を反射して金色の世界にいるようでした。もみじは燃えるようだけど、イチヨウは輝くんだわ～と感動しました。落ちている銀杏は拾って帰り、しっかりと食欲の秋も満喫しております。ひと月ほど前から文鳥（のヒナ）を飼い始めました。小鳥とはいえ、思っていたよりずっと人間らしく我が家の

1ヵ月半、ずっと注射器のような器具であげていた練り餌（離乳食）の回数が減り、嬉しいような寂しいような。長男は男の子育てというか、いきなり「飛ぶ練習！」と放り投げています（さすがに初めの頃はやめさせました）。今では名前を呼びながら投げると、バタバタッとブーメランのように肩に戻ってきます。「遊んで～飛ばして～」みたいな感じです。反対に長女はまったく手や膝の上で遊ばせます。わかったもので、鳥もべたべたくっついて手のひらに座り込んでう

とうとしています。この違いは男女差なのか、単に性格の違いなのか・・鳥もちゃんと相手を選ぶところがすごいです。調べたところ、文鳥の生後1ヶ月は人間の9歳くらいとか。長男と同じ？ そうなのか。日中は遊び、夜暗くなると眠る・・人間と同じですね。いえ、ここまで理想的な生活はしていませんが(汗)。この文鳥、名付け親は長男です。その名も「アレックス」。もっと鳥っぽい名前は他にあるだろ～と思うのですが、長男曰く「かっこいいから」。確かに格好良い名前です。でも、まだ小さいので性別不明なのです。ついつい「アレックスくん」と呼んでしまう(やっぱり

男の名前だと思う)と、「まだ男か女かわからないのに～」と名付け親から。オスであることを祈るよ、アレックス。

(富家 香麻里)

## みかん便り

おひさしぶりです。愛媛の大学生、河村高志です

3ヶ月続いた病気も、最近やっと落ち着いてきました。まだ完治じゃないですけどね(苦笑)病院通いで結構大変やったんですが、精密検査の後、初MRI検査しました あれだけ大きい機械なんで、ものすごいうるさかったです。。結果、体は何にも異常なしでした よかった、よかった。

最近カンボジアに行ってみたくて、お金を貯めています。気付けば食費をケチって1日1食になることも(苦笑)10月はちくわしか食べてま

せんでした(笑)やから病気も治らないんですね。。

11月入ってからは料理を楽しんでいます。麻婆豆腐、肉味噌から作れるようになりました でも、寒くなってきて洗い物が辛い…。こんなときに限って友達がよく遊びに来て飯食べて帰るんで、洗い物がどんどん増えます。。うちのアパート、水しか出ないんで手が痛いです。。主婦って大変なんですね。実家はお湯出るんで大変じゃなさそうですけど。

ってなわけで、昨日ゴム手袋〔内羽付〕を買って気ました 快適な生活ができそうです。ちなみに友達が半 9

分金出してくれました(笑)友達って大切ですね

最近読書を始めました。小説、新書、英語の参考書(笑)いろいろな本を読むようになりました。一番気になった本は「人間の覚悟」って本です。精一杯生きてみるって、どういう風にすればいいのかはよくわからないけど、とことん何でもやってみようって思いました。なんか世の中間違ってると感じるようになったんですけど、別に何が出来るわけでもないなあって思っちゃいます。

とりあえず、ご近所さんの挨拶は日課になりました。これで何が変わるってわけでもないんですが、とりあえず隣のおばあちゃんとは仲良くなりました。おばあちゃん98歳です!!「生きてるだけでありがたい」っておばあちゃんに言われました。教会に所属してるのに、普段まったくそんなこと考えてなかったんで、最近では考えるようにしてます。教会

で覚えてることは、『山の神様、ありがとぉ』だけだったんで(苦笑)

あと、昨日からあるblogを読んでいます。『ぼくたちと駐在さんの700日戦争』映画にもなったんで知ってる人もいるかなあ?原作がPCや携帯で、ネット上で読めます。ほのぼのとした話の中にもいっぱい教訓が入ってて、いい話です。毎日朝8時まで読んで寝不足なんですよ(苦笑)

ちなみに、恋人・両親・主人公が死んで涙を誘う話は嫌いです。なんか、最近そういう本・映画が多すぎて、死んでいうものが安っぽいものを感じちゃうのが辛いなあ。。

本を読むことで、若干ですが自分が変わってきた気がします。家族とケンカばかりしてたのに、オカンに「最近元気してる?」って電話かけたぐらいですもん(笑)

読書っていいですね っと思えた今日この頃でした。

(河村 高志)

## 今月のあ・そ・び

“クリスマス絵本のこと”

イエスの“降誕(誕生ではなく降誕)”の日を記念し祝うクリスマスは、キリスト教の宗教行事として“教会歴”の中に決められています。そのクリスマスが、その言葉と共に、広く日本で話題になります。話題になっ

て、違和感がないのは、子どもたちが願いごとをして実現を心待ちにする行事としてそれなりに日常化しているからです。

そんなクリスマスのことが絵本になって、とても素敵だったりします。「クリスマス人形のねがい」(ルーマ・ゴッデン文、バーバラ・クーニ絵、

岩波書店)は、クリスマスの“ねがいごと”が、実現するものであること、誰も強制も保障もできないけれども“ねがいごと”として託す時に、めぐりめぐって実現しなくはないことが描かれた物語です。

「クリスマスまであと九日」(エッツ&ラバスティダ作、富山房)は、メキシコの子どもたちのクリスマスのことを描いた絵本です。子どもたちが成長していく時の、期待と不安、そして喜びが、クリスマスの出来事と結びついて、たくさんの人たちと共有される物語が「クリスマスまであと九日」です。

「クリスマスものがたり」(フェリクス・ホフマン、福音館)。クリスマス(降誕日)は、イエスの誕生日の記念ではなく“降”誕という、キリスト教の教会歴の決まりの日です。ホフマンがそのことを描いた時、そのことの不思議、そして幼な子の誕生、その幼な子をめぐる驚きや不安が、結果的に“人の子”の物語になりました。それでしかイエスの物語は描きようがなかったからです。

「サンタクロースってほんとうにいるの?」(てらおかいつこ文、すぎうらはんも絵、福音館書店)。サンタクロースを信じていた子どもたちも、いつかそれが物語であったことを納得します。“ウソだった”という納得の仕方ではなく、サンタクロースの体験とよい思い出をいっぱい心に残

して、時期がきて“卒業”することになります。「サンタクロースってほんとうにいるの?」は、“いる、いない”の境界線にいる子どもたちに、“いる、いない”を断言するのではなく、その物語が本来持っている意味を外さずに、言葉のやり取りで絶妙な答えを見つけていきます。

以下、クリスマスの物語がなかなかよく描かれている絵本です。

「クリスマスってなあに」(ディック・ブルーナー、講談社)

「クリスマス・イブ」(マーガレット・ワイズ・ブラウン、ほるぷ出版)

「クリスマスのまえのばん」(クレメント・C・ムーア、福音館)

「くんちゃんとふゆのパーティ」(ドロシー・マリノ、ペンギン社)

「シモンとクリスマスねこ」(レギーネ・シントラー、福音館)

「さむがりやのサンタ」(レイモンド・ブリックス、福音館)

「百まいのドレス」

(エレナー・エイティス、岩波書店)

「とってもふしぎなクリスマス」(ルース・ソーヤ、ほるぷ出版)

(菅澤 邦明)

2008年12月 あんなこと こんなこと...

## 教会学校から

### 《11月の活動報告》

11月2日(日)

おやき&けりごま

11月8日(土)

共同まつり

11月9日(日)

射的大会

11月16日(日)

高松公園で落葉拾い&ドッチビー大会

11月23日(日)

クリスマスグッズ製作

&クリスマス映画上映会Part

11月30日(日)

クリスマスグッズ製作

&クリスマス映画上映会Part

### 《12月の活動報告》

12月7日(日)

のびる焼きを食べよう

12月14日(日)

わが町クリーン大作戦

12月18日(日)

合同子どもクリスマス会

12月21日(日)

教会学校クリスマス会・プレゼント交換





# 大切な贈り物・津門川 76

“ 津門川掃除に参加して ”

息子や娘とともに鯉を見る以外は普段あまり気にすることなく通り過ぎる「津門川」。

今回で2回目の津門川掃除ですが、「加藤さんも川に入ったら？」とのお声を頂き、息子・娘同様旺盛な好奇心から川に入ってからゴミ拾いをさせて頂きました。新たな津門川を発見できたことに驚きと感動を覚えました。意外に深い川であるのと、植物も根が深く、あのような街中に流れる川でもしっかり植物は育っていることに驚き、上から見ている景色と下から見る景色の違いにある種「新発見！」の感動。本当に良い体験をさせて頂きました。

しかし、ゴミは絶えず「タバコや空き缶」といった捨てごろ？と思われるゴミは非常に多く、一人一人の意識が変わらない限り永遠に無くならない課題であると再認識すると共に、自分自身や子どもたちには良い教訓

になりました。

それともう一つ感動したシーンが「関学生」の参加でした。この寒くなってくる時期に素足で川に入り、真剣に掃除する姿は、職場や社会において後輩や部下を持つ年齢にきている我々の最近の言葉は、昔私たちが言われていた「最近の若い奴は・・・」という言葉。今回の彼らの活動は、「最近の若い奴らもいいところある！」という気持ちに思いました。

自分自身への新発見・教訓・人との出会い等々、いろいろなことを教えてくれる「津門川」という自然。TVや本などで環境問題を提唱し「自然を守れ！」と政治家や学者は言いますが、本当に守るためには自分自身が積極的に自然に触れないと・・・。そんなことを無言で教えてくれた「津門川」でした。

(加藤弘之)

私が小学生の時、通学路は川沿いにありました。いつもその川を眺め、何かを見つけては立ち止まり、毎日歩いていました。家の裏の土手の横にも川が流れていて（ヌートリアが沢山いました・・・）、そこは私たちの遊び場でした。その頃の景色や匂い、今でも覚えています。

大人になり西宮に来て、公同幼稚園に出会い、津門川に出会いました。幼稚園の行きと帰り、自転車を走らせながら、とりあえず津門川を覗き込む。もうこれは私たち親子の無意

識の日課です。津門川の川掃除にも、行ける時は参加させて頂くようになりました。小学校3年生の長男は「大きくなって早く川の中に入って掃除したい！」と言っています。憧れのゴム長！

津門川の自然の姿に触れたこと、仲間や先生・地域の方と一緒に川掃除をした経験が子どもたちの心に何か残してくれることと思っています。

そして、このような機会を与えて頂いたことに感謝します。

（加藤亜紀子）17

## まいのなんでも案内

先日、久しぶりに実家（西宮）に帰ったところ、生まれ育った街並みが見事に様変わりしていました。ご存知、西宮北口ガーデンズができあがっていたのです。雨天だったので、沢山の人が一様に大型商業施設に吸い込まれていく様子は、さながら傘の行列のようでした。また人並みが落ち着いたら行ってみたいと思いますが、最近行くショッピングモールは、みな同じような間取りと店並びに思ってしまうので（これは私に恐ろしく空間認知能力が欠如しているせいだと思われます）、西宮北口ガーデンズの中では迷わないようにしたいです。さすがに齡22にして、迷子の館内放送はされたくないですしね！

はい、前回お話しした英語劇『WICKED』、無事上演することができました！公演当日も相当な悪天候だったのですが、それは私の演じたマダム・モリブルが、天候を操る魔法が得意という触れ込みながら、実は嵐しか呼べないせいではなかったかと思っています。そう、『WICKED』においては、『オズの魔法使い』のきっかけとなる嵐（竜巻）は、オズの国での企みの一部という設定なんです。その他、脳のないかかし、心のないブリ

れぞれ、原作とは違う背景が与えられていて、全て通じて読むと、細かい辻褄は合わないながらも納得できる筋書きになっています。作者も全く違うので、パロディーと言ってしまっても構わないかと思います。ということで、ざっと『WICKED』のあらすじを。

『オズの魔法使い』の数年前のお話です。オズの国では、動物と人間が同じように話し、暮らしていました。生まれつき全身緑の肌を持つ少女、エルファバは、足の悪い異父妹のネッサローズと共にシズ大学に入学します。ルームメイトのグリンドは金髪美人で人気者の野心家。2人は反発し合いますが、グリンドが、自分に言い寄ってきたクラスメイトのボックに、ネッサローズをダンスに誘うよう勧めたことをきっかけに、親友となります。ある日の授業で、ライオンの子どもを、グリンドとお似合いのカップルとされている遊び好きのフィエロと共に助けたエルファバ。その魔法の力を校長のマダム・モリブルに認められ、偉大な魔法使い、オズの住むエメラルドの都へと呼ばれます。ところが、そこで出会ったオズはただの人間でした。彼はエルファバの力を利用して、動物の話せない世界を作ろうとしていたのです。畏

にはまって猿に魔法をかけてしまったエルファバは逃げ出します。一方、オズの元に留まるグリンド。2人はお互いの幸せを祈りながらも、「南の善き魔女」と「西の悪い魔女」として、別々の道を歩み始めるのでした。

と、こんなもんじゃ全然説明できてないのですが、2人の女友達同士の、恋愛も絡んだ友情物語、と言いましょ、キャラクターそれぞれが成長していく話です。途中は、何だかんだ言って痴情のもつれか！三角関係か！（正しくは五角関係）とツッコミたくもなりますが、それがかえって、国のためだとか信念のためだとか言うより人間らしくて、親近感が持てます。数々の場面にミステリー並の伏線が張られていて、2回目に観ると、違った感想が持てます。エルファバの出生の秘密が明かされたときも、ああだからあの人はそういう態度だったのか！と納得したり。原作の小説として本も出てるのですが、長いし、何より歌がいいし、やっぱりミュージカルを何らかの形で観ていただきたいですね。あと『オズの魔法使い』は、偕成社文庫やら岩波少年文庫やら福音館書店やらで完訳が出ているので、その辺りをお薦めします。

「Wicked」とは、英語で「邪悪な、悪い」等の意味で、魔女を表す「Witch」の語源でもあります。悪い魔女、「Wicked Witch」の「WICKED」をタイトルとし、『オズの魔法使い』では、全

くの悪役・・・勸善懲惡の悪とも言えるべき「西の悪い魔女」に目をつけ、彼女に色々な事情、背景を設けて、魅力的な人物にしてしまう。これこそが想像力の楽しみであり、無限の可能性があるってことだと思います。いやー空想って素敵ですね。私なんて起きている時間、常に頭の一部は空想の世界に飛んでます。こないだも授業中に、卒論の題材である聖パトリックがやたら格好良い姿で現れて思わず涎が・・・いや、あの、別に私、危ない人じゃないです。ちょっと想像力が豊かすぎるだけです。ていうかその日は寝不足だったんですよ。・・・こういう言い訳ってすればするほど信憑性がなくなるのはどうしてなのでしょう・・・。これ以上ボロを出さないうちに、筆を置きたいと思います。また次回。

（高橋 舞）

## つとがわ 編集後記

お米に限らず、農作物を作るのには時間がかかるのと、天候に大きく左右されます。収穫の頃に台風がきたりすると、すべてが台無しということにもなります。更に、農作物が国境を越えて流通することで、その時のいわゆる基軸になる通貨の乱高下が、収穫された農作物の流通に大きな影響を与えることとなります。たとえば、円が90円台(対ドルで)になってしまった現在、輸出を予定していた農作物はとてども売れにくくなっているに違いありません。青森県のリンゴ農家の人たちのリンゴが売れなくなっている様子が聞こえてきます。農作物を作って、それで生計を立てている人たちの、それが宿命と言えなくはありませんが、時間がかかって、天候に大きく左右されるものを作っている人たちの働きは、それなりに報われていいように思っています。

リンゴを食べてください。

( K )

12月1日の夜空を見上げた方はどのくらいいらっしゃるのでしょうか。寒い寒い冬の夜空にはニッコリと輝く木星と金星と月がいました。星座とか詳しくない私ですが、星空を眺めるのが大好きです。美しく輝く星たちが寒さを一瞬忘れさせてくれるような気がします。

( N )

高松公園、駅前、津門川とそれぞれに点灯式の灯を迎え、毎晩にしきたの街をきれいに彩ってくれています。街を歩くとどこへ行ってもクリスマス一色ですね。子どもたちともアドベントカレンダーを作って、クリスマスまでの日々を心待ちにしています。今年はどんなクリスマスを迎えるのか今からワクワクしています。

( Y )

先日、西北のクリスマスイベントで奥野さんという人の歌を生で聞きました。今年の運動会でも使われた“太陽の子ども”みんなで空を見上げて踊った歌です。

寒い冬空の下で聞くと、また違ったように聞こえ、生の歌声に心がふるえました。歌を聞いて涙があふれ、そのあふれた涙をとめることができませんでした。私の中で大切にしたい1曲がまた増えた瞬間でした。素敵な歌にこれからも出会っていきますように……。

( I )

昔読んだ作品に城山三郎の「毎日が日曜日」というのがあった。定年退職後の男の人の話だったけれど、忙しくなると逆説のようにその題名を思い出す。「朝起きて今日は何をしようかと悩むほど辛いものはない」先年86歳で亡くなられたKさんのことば。だから決して「忙しい!」とは口にしない。でもわれながら感心する。“今日は何もない”という日はまずない。何かある。絶対ある。そんな1年を、健康に、そして「今何を話した」かも忘れるほどの昨今を支えてくれる仲間がいて、無事に過ごせました。メリークリスマス!そして良き一年のはじめが迎えられますように(“ワケあり”で、私宅の年賀状は今年はなし。1月10日過ぎまで順延です)。

( J )